**道徳学習指導案**

指導者　堺市立美原西中学校

担　　任　　T１

栄養教諭　　T２

１．日　　時　平成３０年１月３０日（火）　第５時限（１３：２０～１４：１０）

２．学年・組　第２学年４組

３．主 題 名　感謝　B―（６）

４．教 材 名　「ありがとう。のこころ」（堺市教育委員会　出典）

　　　　　　　「いのちに感謝」DVD　　（宮崎県・JA宮崎経済連　制作）

５．主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

　　本主題は、B-(６)「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意に　　　より日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること」である。

　　私たちは毎日食べ物を食べなければ生きていけない。しかし、食べることが当たり前になっている現代では、「空腹を満たせられれば良い」「好きなものだけを食べればよい」となっていないであろうか。食べ物は空腹さや楽しさ。気持ちの安らぎを頂いていることを忘れてはいないであろうか。

　　本時では、食育のねらいを取り入れ、食に関する感謝の心をきっかけに食に関することだけではなく、生きていく中でより多くの人やものに感謝の心をもてるようにしたい。

（２）生徒の実態について

　　※個人情報のため削除

（３）教材について

　　堺市教育委員会の道徳教材「未来をひらく」の「１６．ありがとう。のこころ」の中には４つの短い詩が記載されている。その初めの詩「毎日のごはんに」は、毎日のごはんにありがとうという気持ちを綴っている。毎日生活を送る中で食事をすることは誰にとっても身近なことであり、本時で考える感謝の心を再確認できる資料となっている。また残りの３つの詩では、ものや毎日の生活、これから出会う人たちに対してのありがとうの気持ちを綴っており、食からいろいろなものへ感謝の心を広げることができる資料である。

　　２つ目の教材として、宮崎県JA「いのちに感謝。」の動画を使用する。動画の中には、食べ物を粗末にし　　　たり、残したりなど自分自身も生活の中で何気なくしてしまっている食に関する行動を表した映像がたくさんある。動画に映る行動を見て、普段の生活を振り返るきっかけになると考え、この教材を選択した。また動画の中には農業に携わる人々の絶え間ない努力と家庭での食卓風景との対比も示されている。

　　毎日の生活の中で食事を摂ることは当たり前のようであるが、その裏側にはたくさんの人々の努力があり、支えられていることに気づくことができる教材である。

６．本時のねらい

　①道徳のねらい

　　・多くの人やものの支えにより、日々の生活や現在の自分、これからの自分があることに気づき、それに　　感謝し、応えようとする心を育てる。

　②食育のねらい

　　・食べ物の命について考え、食べ物や食べ物の生産等に関わる人々へ感謝する心を持ち、態度に表すことができる。（感謝の心）

７．本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 指導者の指導・支援（○T１　●T2） | 評価（準備物） |
| 導入  １．動画を視聴する。  　　　　　　　　（２回）  展開  ２．食べ物に対して感謝の気持ちをどう伝えるか考える。  まとめ  ３．めあてを知り、自分の身の回りの人やものに対して、どんなありがとうを伝えたいか、またどう応えていきたいか考える。 | ●自分の普段の生活を考えながら動画を見て、自分の生活を振り返させる。  ●食べ物に対しての感謝の気持ちをどう表すかグループ交流を行い、意見を引き出す。  ●「頂きます」の前に行う手を合わせる動作や、「御馳走様」の漢字に隠れている意味を知らせ、感謝の気持ちの表れであることに気づかせる。  ○本時のめあて（ありがとう。のこころ）を知らせる。  ○「ありがとう。のこころ」を範読する。  ○何に（人・もの）感謝したいか、その想いにどう応えたいか考えさせ、「ありがとう。のこころ」をいろんなところへ広げていけるようにする。 | ☆動画と比べて、自分の生活を振り返ることができたか  【発言・ワークシート】  （DVD教材）  （ワークシート）  ☆関心を持って話し合いをすることができたか。  【発言・ワークシート】  【行動観察】  （ワークシート）  （班プリント）  【発言・ワークシート】  （ワークシート） |

８．板書計画

　　別紙参照

９．その他（資料等）

　・「ありがとう。のこころ」資料

　・宮崎県JA「いのちに感謝。」DVD動画

　・ワークシートプリント

　・班プリント